

## AI等を活用して水道水の残留塩素の管理業務を効率化したい！

### 課題



- > 東京都水道局は、安全でおいしい水をお届けするために、においや味などに関する項目について、国が定めた基準よりも高いレベルの目標として、都独自の「おいしさに関する水質目標」を設定し、目標達成を目指している。
- > 残留塩素は、水道水の衛生確保のために必要であり、蛇口での濃度の上限を1mg/L以下に抑えるという目標値があるが、カルキ臭の原因の一つとなることから、「おいしさに関する水質目標」では、0.1mg/L以上0.4mg/L以下を目標にしている。
- > 目標の達成に向けて、AI等の技術を活用し、より安全でおいしい水をお届けしたい。

### 背景

#### <現状>

蛇口の残留塩素濃度は多摩地区84地点に設置した自動計器でモニタリングしている。残留塩素の追加管理は浄水場と追加塩素設備計約60地点で行っている。残留塩素にとって特徴量である、水温、残留塩素濃度、TOCのデータなどは十分に蓄積しており、さらに天候や気温といった気象情報を一元管理し、グラフ化した資料を用いて、毎朝打合せを開催して、過去の経験を活かしながら、きめ細かな管理を実施している。

【参考】おいしさに関する水質目標（東京都水道局）

[https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/suigen/s\\_mokuhyo](https://www.waterworks.metro.tokyo.lg.jp/suigen/s_mokuhyo)

### 現場からのコメント



- モニタリングされた水質のデータは過去数年に遡って利用可能です。
- 蛇口の残留塩素濃度を事前予測することで、より適切な残留塩素管理を行いたいです。

### 現場情報

※現場への直接のご連絡は行わないでください

水道局多摩水道改革推進本部調整部  
(技術指導課水質検査担当)

東京都の多摩地区の水質を管理及び  
検査している